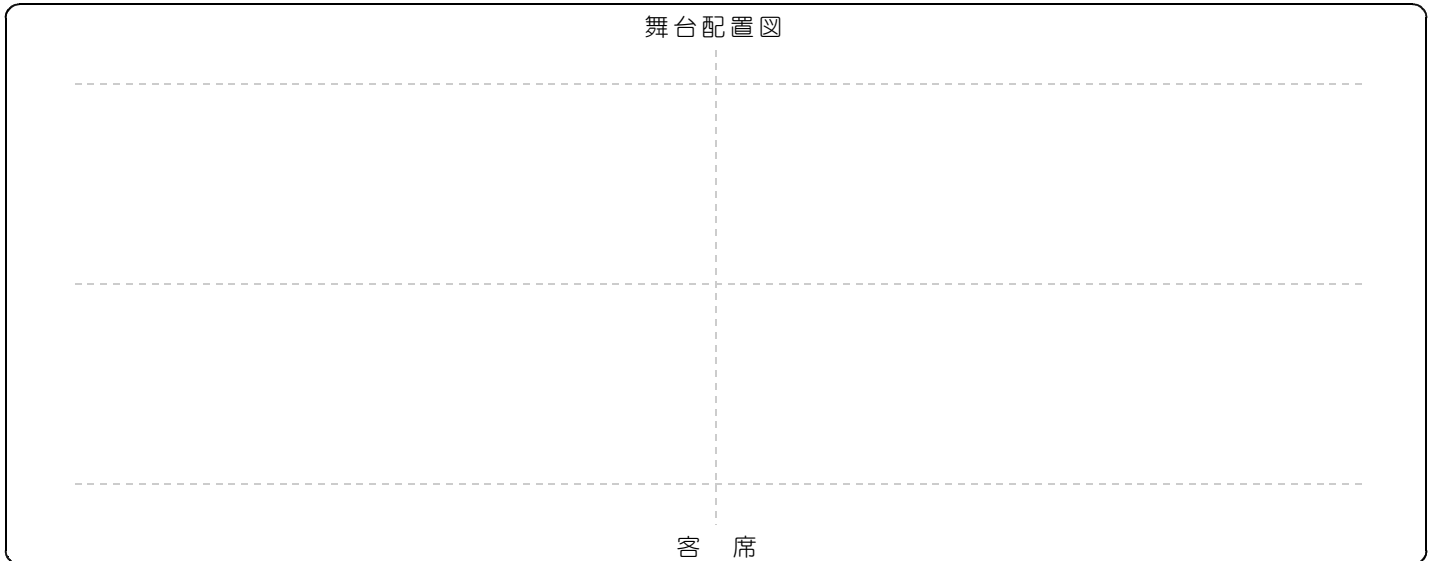


No.	四季の日々より	秋 の 日	演奏者数	演奏時間
-----	---------	-------	------	------



表示記号一覧	一 箏	= 17絃	+ 三絃	0 尺八	≠ 他楽器	* マイク	□ エコー	□ 毛氈	W 屏風
立 奏	立奏台	大 台	小 台	椅子	大 台	小 台	譜面台	台	ハイター 枚
座 奏	琴台	台	見台	台	山台	録音 有：無	録画 有：無	他	
始	緞帳：暗転	板付	毛氈 緋：紺	音響					
終	緞帳：暗転	板付	屏風 金：銀	照明					

調絃表	ピッチ A=44										編成：1箏			2箏		
Part	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	斗	為	巾			
1 箏	D	G	A	A#	D	D#	G	A	A#	D	D#	G	A	平調子 一は五の乙(D)		
2 箏	D	G	A	C	D	D#	G	A	C	D	D#	G	A	平より四九一音↑ 一は五の乙(D)		

編成欄には面数を記入 開始調絃は太字 転調は上下の欄 ハーモニックスは右肩に○

組曲 四季の日々ー 春の日、夏の日、秋の日、冬の日 ー作曲年 1986年 委嘱者 ー 構成 箏 I・II
 時間 各6分 出版楽譜 ミュージックエス 解説 日本は季節の変化に恵まれた国だ、そしてそこに住む人々はその四季の移り変りに身も心も順応させて、季節を楽しむ。たまに季節外れの云々… 等もあって日常の話題の一つになったりもするが、概して春は花の美しさを夏には太陽の明るさ、また秋には風にのる落葉、そして冬は雪景色の面白さを誰もが心に綴るに違いない。この組曲では、箏の二重奏によってそれを綴っていくが、技巧上の一つの工夫として、第一箏での押し手の使用を避け演奏を容易にし、合奏によって音の変化を楽しめるようにした。1986年2月作曲。 [作曲者] 収録媒体 ー